

近年、様々な場面で取りざたされる教職員の「多忙感」や「長時間勤務」は、早急に改善されなければならない喫緊の課題となっています。その課題を解決するためには、業務の削減と同時に、効率的な校務処理による業務時間の軽減を図ることが重要となります。そして、効率的な校務処理に大きく寄与することができるのが「校務の情報化」です。

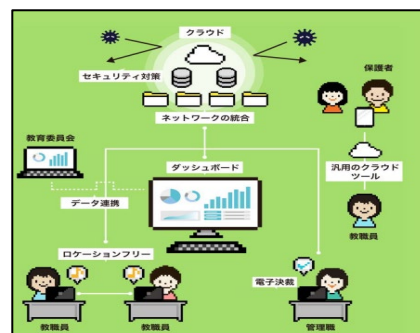
1 校務の情報化の目的

「教育の情報化に関する手引（追補版）（令和2年6月）」では、校務の情報化の目的を次のように述べています。

（前略）校務が効率的に遂行できるようになることで、教職員が児童生徒の指導に対してより多くの時間を割くことが可能となる。また、児童生徒の出欠・身体・成績・学習履歴等、様々な情報の分析や共有により、今まで以上に細部まで目が行き届いた学習指導や生徒指導などの教育活動が実現できる。さらに、教師間における指導計画、指導案、指導事例等の情報共有により、教師間のコミュニケーションを増加させたり、学校ウェブサイトやメールなどによる情報発信により、家庭・地域からの理解・協力を促進させたりすることができる。（後略）

校務の情報化で目指している姿は、学校内の文書や児童生徒に関する情報がデジタルデータ化され、教職員間で相互に共有できるとともに再利用でき、教育委員会等及び各学校間で相互にネットワークで結ばれ情報のやり取りができる状態であり、それらが連携している姿です。

校務の情報化の直接的な効果は、教職員の負担軽減や業務の効率化ですが、そのことが「児童生徒に対する教育活動の質的改善」につながるということを共通認識としてもち、校務の情報化の実現に向けて前向きに取り組んでいくことが大切です。



GIGAスクール構想の下での
校務DXのイメージ

関連資料

- ・ [教育の情報化の推進](#)（文部科学省）
- ・ [教育の情報化に関する手引（追補版）第5章](#)（文部科学省 令和2年6月）
- ・ [GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～](#)（文部科学省 令和5年3月8日）

2 校務の情報化が生み出す学校の変容

校務の情報化の推進により、期待される効果には、次のようなものが考えられます。

(1) 業務の軽減と効率化

校務に関わる情報を電子化し、共有できるようにしておくと、同じ内容を何度も手書きで転記したり、その都度文書を作成したりする手間を省くことができます。また、公文書のやり取りをネットワークを介して行うことにより、紙の文書のやり取りの手間もなくなり、決裁などの手続きもスムーズに実施できるようになります。

(2) 教育活動の質の改善

校務の情報化により、校務の軽減と効率化が図られることで、その時間を児童生徒に対するさまざまな教育活動へと充てることができます。その結果として、児童生徒に対する教育の質の向上や、学校経営の改善と効率化など、教育の質的改善へとつながります。

(3) 保護者や地域との連携の強化

Webページによる情報発信を行うことにより、これまでのような紙の資料では伝わりづらかった学校の情報が、保護者や地域にも伝わるようになります。これによって、保護者や地域との連携をさらに進めることにより、お互いが協力して教育活動に当たる体制を作り出すことができます。

(4) 情報セキュリティの向上

私物PCの利用やデータの持ち出しなどによる情報の流出や紛失が大きな社会問題となっています。校務を情報化すれば、セキュリティの確保された安全なサーバ上で情報を一元管理できるので、このようなリスクを大幅に軽減することができます。

関連資料

- ・ [校務情報化の現状と今後の在り方に関する研究](#)（日本教育工学会）
- ・ [全国の学校における働き方改革事例集 令和5年3月改訂版](#)（文部科学省 令和5年3月）

(1) 統合型校務支援システムの導入

茨城県は、県立学校に統合型校務支援システムを提供しています。また、県内各市町村においても独自に導入が進んでいます。

統合型校務支援システムとは、「教務系（成績処理、出欠管理、時数管理等）・保健系（健康診断票、保健室来室管理等）・学籍系（指導要録等）・学校事務系などを統合した機能を有しているシステム」を指し、成績処理などだけでなく、グループウェアの活用による情報共有も含め、広く「校務」と呼ばれる業務全般を実施するために必要となる機能を実装したシステムです。

統合型校務支援システムを導入することで、それまで「手書き」「手作業」で行っていた業務をシステムを活用して行うことができるようになり、業務の効率化・負担軽減を図ることができます。

(2) 校務系データと授業・学習系データの連携・活用

個人の学習状況等のスタディ・ログを学びのポートフォリオとして電子化・蓄積して指導と評価の一体化を進めたり、ビッグデータを活用して教育の質の向上を図ったりするなど、新しいテクノロジーを活用した取組を進めていくことが重要だと考えられています。文部科学省では「エビデンスに基づいた学校教育の改善に向けた実証事業」で、校務系データ（例：出席簿・成績情報・指導記録など）と授業・学習系データ（例：児童生徒のレポート・児童生徒が行った学習ドリルなど）を連携・活用し、学校におけるデータ活用の在り方や学習記録のデータ化の方法、システム要件等に関する実証研究を行っており、学校に蓄積されている様々なデータを活用して、教育の質の向上に取り組むことが求められています。

(3) GIGAスクール構想の下での校務DX

文部科学省では、学校及び教育委員会が校務DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を整理した「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」を作成し、チェックリストに基づく自己点検の結果を取りまとめるとともに、一部項目の全国の取組状況を可視化するダッシュボードを公開しています。その結果を受けた参考資料の中には下のようなデータがあります。

- ① その項目を一定以上取り組んでいると回答した学校において、効果実感が特に高かった項目
 - ・ 児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計する。
 - ・ 保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計する。
- ② 一定以上取り組んでいる学校の割合は比較的低いが、取り組んだ学校で効果実感が特に高かった項目
 - ・ 保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用い、受け付ける。
 - ・ 保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて行う。
 - ・ 教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用する。
 - ・ 「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき生成AIを校務で活用する。
 - ・ 学校内外の行事日程、施設や特別教室の利用予約等について、クラウドサービスを使って共有し、いつでも確認できるようにする。

取組を進めたいが何から着手したらよいのか悩んでいる学校では上記の①を参考にすることで、校務の効率化を推進することができます。また、②を未実施の学校においては、取り組むことがより効果的であると考えられるため、ぜひ取り組んでいたきたいです。（②の具体的な事例はリンク先から閲覧できます。）

茨城県教育委員会では、県内の既存のデジタルツールにより校務の効率化を進めるため、「ICTを活用した校務の効率化の事例」を紹介しています。

校務の情報化のはじめの一歩として、実践することをお勧めします。

ICTを活用した校務の効率化の事例

- ✓ 教育情報ネットワークからアクセスできるデジタルツールを使って、校務を効率化している事例をご紹介します。貴校でも始めてみましょう！



<別添 1 の業務改善につながるデジタルツール>

- | | | | |
|-------------------------|---|--|------------------------------------|
| ① 生徒の出欠連絡
欠席状況の学校内共有 | ➡ | | フォーム×スプレッドシート
朝の電話対応、情報共有の手間を削減 |
| ② 稟議（起案・決裁） | ➡ | | ワーク・フローシステム
起案・決裁の迅速化 |
| ③ 文書の共有・管理 | ➡ | | ドライブ
資料の共有・検索の迅速化、紛失防止 |

<その他の便利なデジタルツール>

- | | | | |
|------------|---|--|--------------------------------|
| ④ 教員間の情報共有 | ➡ | | チャット（スペース）
文字によるリアルタイムの情報共有 |
| ⑤ 柔軟な働き方 | ➡ | | テレワーク
通勤時間の削減、育児・介護との両立 |

ICTを活用した校務の効率化の事例（茨城県教育委員会）

関連資料

- ・ [エビデンスに基づいた学校教育の改善に向けた実証事業](#)（文部科学省）
- ・ [GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト](#)（文部科学省 令和6年9月）
- ・ [校務DXを促進するための取組に関する参考資料](#)（文部科学省 令和6年12月26日）
- ・ [校務DXの取組に関するダッシュボード](#)（デジタル庁 随時更新）
- ・ [ICTを活用した校務の効率化の事例](#)（茨城県教育委員会 教育改革課第595号 令和6年10月18日）※教育情報ポータルへのログインが必要（ポータルシステム→公文書→教育改革課に掲載）

4 生成AIを活用した校務の情報化

GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストの自己点検結果（令和6年12月26日[速報値]）において一定以上取り組んでいる学校の割合は2.6%と低いですが、生成AIを校務で活用した取組を実施した学校の41%が効果実感があったと回答しています。また、令和6年12月に改訂された「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」において、生成AIの校務での利活用の有用性について述べられています。

(1) 生成AIの校務での利用

生成AIを授業準備や各種文書のたたき台作成を含む校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、教職員の働き方改革につなげていくことが期待されます。また、教職員自身が生成AIの利活用を通じて新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点、賢い付き合い方を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要です。教職員が生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で利用するという前提で、校務において生成AIを積極的に利活用することは有用であると考えられます。ただし、基本的な考えに留意した上で、「安全性を考慮した適正利用」や「情報セキュリティの確保」「個人情報やプライバシー、著作権の保護」「公平性の確保」「透明性の確保、関係者への説明責任」についても考慮する必要があります。

(2) 具体的な利活用の場面

教職員による利活用例としては、授業準備・部活動・生徒指導などの児童生徒の指導にかかわる業務への支援、教務管理・学校からの情報発信・校内研修などの学校の運営にかかわる業務への支援、外部対応への支援などが考えられます。利活用の際には、生成AIから一度で求める出力がなされることを期待せず、複数回の対話の中で求める出力に近づけていくことや、生成AIの出力はあくまでも参考の一つであることを認識し、教職員自らがチェックし推敲・完成させるなど、最後は自分で判断し、生成AIの出力を踏まえた成果物に自ら責任を持つという基本姿勢が重要です。

【利活用例】

授業準備…授業で取り扱う教材やテスト問題のたたき台の作成、児童生徒の授業の感想の集約、
発問に対する回答のシミュレーション相手、校外学習の実施行程のたたき台の作成
生活指導…児童生徒等の生活実態の調査のためのアンケート案の作成
学校運営…各種お便り、通知文、案内状のたたき台の作成、研修や講演会の要約や議事録案の作成、
外部向け講演会の挨拶文のたたき台の作成

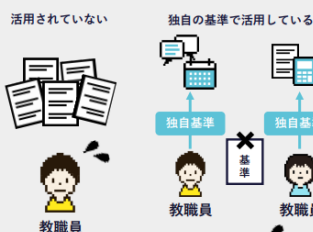
関連資料

- ・ [初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン \(Ver.2.0\)](#)
（文部科学省 令和6年12月26日）

校務における生成AIの活用

Before

- ・ 生成AIが校務で活用されていない
- ・ 教職員がそれぞれの基準・ルールで生成AIを利用している



After

教職員が適切に生成AIを活用し、長時間かかっていた作業(教材やテスト問題、校外学習等の行程作成、研修資料、保護者向けお知らせ文書のたたき台)を効率化している



校務に生成AIを活用することで、長時間かかっていた作業が効率化するなど、働き方改革につながる

GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト（文部科学省）